

みぬま通信 第73号

2018年1月



見沼たんぽくらぶのイベント

第8回見沼たんぽ清掃ボランティア

今年で8回目を迎えた「見沼たんぽ清掃ボランティア」。61人の皆さんのが参加して11月3日の文化の日に開催されました。皆さんには受付で不燃物用の透明ビニール袋、可燃物用の半透明ビニール袋のほか、軍手、火ばさみが手渡されました。受付名簿を見ていると市内だけでなく、市外からも多くの方が参加しています。

開始時刻の午前10時に、当くらぶの新井会長と埼玉県土地水政策課村田主査の挨拶の後、見沼グリーンセンター正門から全員で風車のある公園を清掃、その後、見沼たんぽ芝川沿いの神明下橋までのコースと大和田公園通りまで（芝川の河川改修工事のため一部河川側歩道閉鎖）のコースの2手に分かれ、空き瓶や空き缶をはじめ不法に投棄されたごみの回収にスタート。

歩いていると汗ばむほどの好天気の下、約2時間の活動で例年よりやや多めのごみが回収されました。



10月下旬の台風22号の影響で足もとがぬかるんでいるところもあり、滑らないように注意しながらの活動でした。

終了後、皆さんに（NPO）見沼ファーム21が丹精込めて育てた新米コシヒカリをお渡して、三々五々の解散です。

春日部から来た参加者は「いい天気で気持ち良かったです。終わった後、とてもすがすがしい気持ちになりました。」などと話していました。

（三上 雅央記）

見沼ふれあい農園づくり 京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培

好天に恵まれた11月16日（木）収穫祭が緑区見沼の畠で、見沼たんぽくらぶ会員32名及び福祉団体42名の総勢74名で盛大に行われました。今年は梅雨時の少雨と8月の連日の雨による日照不足と10月の台風などの影響で芋の成長が懸念されましたが、暑い盛りの草取りなど地道な作業が功を奏し、里芋、八つ頭、生姜はいずれも豊作となりました。が、なぜか京芋の出来栄えはいまひとつでした。当日は8時から会員全員で立派に育った里芋、八つ頭の芋ほりに取組み、丁寧に収穫した後、10時頃には参加者が抱えきれないほどの芋を持ち帰り終了となりました。



また、福祉団体の（社福）久美愛園、（社福）ななくさ大谷作業所、（社福）さくら草、（NPO）ともに生きる会さんご、（社福）久喜けいわの5団体の皆さんも慣れた様子で手際よく里芋、八つ頭を泥だらけになりながら収穫していました。

収穫祭に先立ち10月26日（木）にためし掘りを行い、この時に生姜と京芋はすべて収穫しました。参加者は「初めて参加しましたが種イモの植え付けから収穫までとても楽しくできました。暑い時の草取りなど農家の方の大変さが少しわかったような気がします。」「こんなに大量に収穫できるなんてびっくりです。持ちきれないので子供に車で来てもらいます。」などと話していました。

（三上 雅央記）

見沼たんぼくらぶのイベント

第71回見沼の自然と史跡を訪ねて ヒガンバナはじめ秋の花を楽しむ

9月30日(土)見沼自然公園集合にて標記自然観察を、参加者31名の4班編成にて実施した。

朝の集会の後、園内の見沼溜井開拓の総指揮者・井澤弥惣兵衛像を表敬し、見沼自然公園からさぎ山記念公園・締切橋・山下橋・加田屋川右岸を経て旧坂東家住宅見沼くらしつく館で解散となるコースである。

見沼自然公園は平成6年浦和市制60年を記念して造成の都市公園である。修景池にはスイレンが咲き周囲の樹木のアキニレやラクウショウなどは実を付けている。

このコースでの事前調査時の花・蕾のある野草は70種、資料に記録した様に多くあったが、ヒガンバナに関しては開花が1週間ほど早かった様で、この日は盛りを過ぎていた。見沼自然公園を抜けると、東縁の堤防下にはカラムシの群れがあり、この韌皮により織られる「からむし織り」が話題となる。次に東縁の架かる上野田橋を渡るが、その反対側の西方には溜井干拓工事の詰所だったという萬年寺があり、その境内には井澤弥惣兵衛の頌徳碑がある。

深井家の萱葺きの長屋門を経て、更に狭い農道を先に行くと、珍しい葉のキンギョツバキがあり、初観察の人にもその形で命名の趣旨を納得してもらう。道沿いに渋柿の並木があるが、江戸時代にはこの渋柿を原料とする柿渋の産地であったことを物語る。

斜面林を抜けて、さぎ山記念公園の池に出る。再び、東縁沿いを歩き、交通量の多いバス通り越えて水田の広がる新加田屋田んぼに移る。この東縁堤防にも長い距離のヒガンバナの群落が続くが、前述の如く盛りは過ぎている。ここに、淡紫色の花穂を咲かせたツルボ(別名:参内傘)が多くあり観察する。ナガサキアゲハの蝶なども観察された。加田屋川に架かる山下橋を渡る。ファーム21の水田では多くの案山子が稲の成長を守り通した誇らしい表情で立っている。旧坂東家住宅見沼くらしつく館には最後の班も12時半頃に到着し無事解散となる。

(若野 忠男記)

見沼ふれあい農園づくり 秋野菜栽培

ふれあい農園づくり2号地(緑区見沼)の県民参加による秋野菜栽培は11月11日(土)晴天のもと収穫の日を迎えることが出来た。最初の種蒔が雨で1週間延期から始まり更に第3回目も雨天延期と天候不順にも拘わらず、参加者の懸命な努力により成果をもたらした。ただ、有機肥料・無農薬栽培を目指したが、虫害が意外と深刻で当会役員による弱い農薬散布を行うこととなつたが、京菜・小松菜・ビタミン菜の葉物の被害は大きかった。幸いにも大根・蕪・春菊は順調に生育して収穫を迎えることになった。



この農作業に参加した延べ人数は433名、うち子供達は142名と3分の1を占めた。初めての農作業体験だったと思われるが、親たちと共に直に農産物を作ることに懸命に働いて頂いた。

5回目の収穫日11月11日(土)は晴天のもと105名の参加がありセレモニーの後、作業手順の説明があり、3班編成で大根<青首(総太り・宮重)・聖護院・紅芯>と蕪<中かぶ・小かぶ・赤かぶ>をリーダーの指示のもと収穫作業に入る。収穫されたものは種類ごとに集積される。これを参加の家族グループ単位(個人参加は1グループとして)に均等に仕分けされて夫々持ち帰って頂くこととなる。なお、春菊・小松菜については大根・蕪の配分終了後、希望者に収穫して貰うこととした。

11月16日(木)に5つの福祉施設にここの秋野菜を寄付するが、それ以降、参加者は自由に残りを収穫することが出来ることとして解散となつた。

(若野 忠男記)

見沼たんぽ地域の会員関係イベント

見沼たんぽ緑地の自然観察会

「巨樹を探そう」

寄らば大樹の陰」という言葉があるが、人々は昔から巨樹とか古木といったものに畏敬と尊敬の念をいだきながら、素朴な親しみを持って見つめていと考えられる。

先日の、10月1日に行った観察会で、大宮公園内を歩き巨樹と判断される樹木を調査したので、ここに報告をさせていただく。

巨樹や巨木と判断される基準に一定の決まりはないが、通常は地上から130cmの高さで幹回りが3m以上とする数値が使用されている。

埼玉県内であれば、秩父地方の山間部あたりは巨樹が多いことで知られているが、その他にも比企郡都幾川町は「巨樹の里」として町をあげて宣传をしている地域もある。

さいたま市内では神社や寺院に巨樹が多く見られ、クスノキやスギ、ケヤキその他、イチョウやカヤ、スダジイなどが多い。

大宮公園は、本多清六が設計をして都市型公園として整備をされてまだ130年ほどであるが、公園としてはいくつもの樹が観察できるきわめて貴重な場所である。

ハナミズキ通りを歩いて大宮公園に入るとすぐに、イチョウ、ヒマラヤスギ、クスノキといった大きな木が出てくる。早速参加者にメジャーを使ってこれらの木を計測をしてもらう。このことは、幹回りが3m以上というのが見た目ではどの程度なのかを実感してもらうためである。

日本庭園の裏側にはアメリカスズカケノキが3本あるが、そのうちの1本は3.45mの巨樹であった。これと同じく、小動物園脇のアメリカスズカケノキも3.25m、近くにあるヒマラヤスギも3.20m、時計塔の側にある、クスノキも3.20mであった。このあたりにはあと数年で巨樹の仲間入りができる樹木が多そうである。

園内にある護国神社の参道には異様な樹肌を

見せているアカシデがある。幹回りは3.15mであるがその堂々とした姿はまさに大宮公園の王者としての風格がある。樹木の大半を占めるソメイヨシノは私が事前に測っておいたが、数本が巨樹の仲間入りができる。しかし、これらの桜は年数が経っており、すでに枯れはじめているものが多い。

100年の森に入ると、かつて「遊園地ホテル」があった場所にひときわ大きなクスノキがある。計測するまでもなく5mを超す堂々たる巨樹である。この他にも近くにある2本のクスノキやムクノキも3mを超えていた。

今回の観察会は私が独自に設定をしたテーマであったので、あらかじめ、園内にある歴史と民族の博物館を借りることにしていた。そこで休憩をはさんで30程度のプレゼンティーションを行った。内容は私が今まで観てきた、埼玉県内の巨樹50本ほどを紹介し参加の皆さんから簡単なコメントをいただいた。

通常の観察会では場所も限られてしまうので屋内での活用は難しいが、今回のように20名を超すような参加者であれば、このような対応も必要になってくると思われる。機会があればもう少し続けてみたいと考えている。

以上



(大宮公園内の計測)

参加の皆様お疲れ様でした。今回のレポートは、NPO法人自然観察さいたまフレンド主催の自然観察会で小生担当のグループ行動です。

(佐々木 明男記)

見沼たんぽ水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎

通船堀大橋

八丁堤の芝川に架かる八丁橋から、通船堀大橋を描く。欄干には船を漕ぐ船頭さんの像が両端に据えられている。

通船堀大橋から下流の川口（安行・鳩ヶ谷など）を経て荒川に架かる鹿浜橋迄、芝川サイクリングロードが整備されており、サイクリングやウォーキングを楽しむ人々が多い。



芝川と鈴懸の木

芝川は沿岸改修工事が進み、以前の面影を残す場所が少なくなってきたが、この北宿大橋から南はまだ自然の状態が残り、鈴懸の木が濃い陰を水面に落としている。下流に架かるのは新宿橋、左方に遠く見えるのは埼玉スタディアム2002の大きな屋根。



晩秋の加田屋新田

見沼くらしき館の東に広がる加田屋新田には、ヒコバエの緑が目立つようになった。

落ち着いた色彩に変わる晩秋の風景は、桜の季節に劣らず貴重な見沼の原風景といえる。画面の橋は、加田屋川に架かる山下橋。



見沼たんぽくらぶ会員作品展

緑の見沼自然公園

作者 高橋淑子

5月下旬の新緑が鮮やかな一日、見沼自然公園の池を巡る遊歩道を描いてみました。左の低い木は、秋には真っ赤な色になるニシキギ、右はハンカチのような花を春先につけるハンカチツリー（別名ハトノキ）も今は緑一色。

デッサンでは意外と構図をとるのが難しく、手前の木の大きさや配置などに時間がかかりました。私は皆様と一緒に絵を描くことで10年近くをこの公園でお世話になってきましたが、バス通りから少し入っただけの見沼自然公園ですが、静かな山里に居るような爽やかな空気を味わえるのが好きです。

見沼たんぼ探訪記

樹木の覆う馬場小室山遺跡

さいたま市緑区の三室中学校の近くに行くと、樹木に覆われた古墳状の小山に目がとまる。周りには進入禁止の柵があり、「馬場小室山遺跡」との案内板が立っています。この遺跡部の西側には窪地があり、その高くなった周辺で、遺物を含



む厚層の土が複数の層に重なって発掘され、多数の土器類や住居跡なども発見されています。

こうした遺構・遺物を研究した結果、「縄文時代後半の集落が長い間連続的に続いていた」という環状盛土遺構であることが分かりました。幸いな事にこの遺跡は、縄文時代が終わってから今に至るまで壊されず、極めて良好な状態で残されており、当時代の集落の特質を示す地形としても注目出来、主要部は県指定史跡として保存されています。

昭和56年の発掘調査では、「土偶装飾土器(縄文後期の土器で口径13.0cm、高さ14.8cm:口縁部に男女の土偶を対照的に付けた深鉢形土器)」が、首部を破損した状態で発掘されました。そして昭和57年には、30点の土器と共に「人面画土器(縄文晩期の土器で口径13.0cm、高さ14.8cm:口縁に沿って沈線が彫られ、表面にハート型の人の顔が描かれている粗製深鉢形土器)」が発掘されました。

この30点の土器は縄文晩期の初期、前期、中期に亘り多世代で使用されたもので市有形文化財に、他の2点の土器は県有形文化財に指定されています。
(召田 紀雄記)

第14回さいたま市みどりの祭典

見沼たんぼのど真ん中、さいたま市北区見沼2丁目の「市民の森・芝生広場」が会場。

10月21日(土)・22日(日)の予定でしたが、台風襲来のため、日曜日は中止し、土曜日だけ雨のなか開催しました。

「みどりに親しみ、みどりから学び、みどりを守り育てましょう!」というスローガンの下、市民団体・学校・行政機関の20グループが参入し、市民参加型の催しを展開しました。

清水勇人市長はじめ来場者はブースをくまなく回り、私たちとの交流を深めました。



総括として来場者のアンケート紹介

「子どもが参加できる工作やイベントがよい。」

「お正月飾りを初めて作り良かった。」

「子どもがゆっくり楽しめたのでよかったです。」「たくさんの団体が、さいたま市の自然を守ってくださっているのだとわかりました。」

「友人と初めてきましたが、いろいろな楽しい活動があり、自分も参加したく思います。」

「雨なのに開催してくれてありがとうございました。」

(みどりの祭典

実行委員会 会長 小野 達二記)

見沼たんぽの仲間たちNo.44

社会福祉法人こぐま保育園の紹介

園長 増永 久美子

こぐま保育園は、地域に根ざした保育園として、開園して41年になります。

泥んこ遊び・水遊び、しなやかな体をつくるリズム運動、みぬまの四季折々、自然の中を散歩など、子ども達は、毎日元気いっぱい楽しく過ごしています。



山羊が遊びにやってきました



プール開きで、マスつかみをしました

保育園には、今100名の園児がいます。朝早い子は7時30分から夕方遅い子は19時30分まで保育園で過ごします。給食は、色々な種類の野菜を沢山使って、安全でおいしい給食に心掛けています。おやつは手作りにこだわり、作って



います。

地域の子育てセンターとして、子育て電話相談・面談などをを行い、園庭の開放をし、地域の子育て中のお母さん達をサポートしています。



流れてくるそうめんを上手に箸で掴まえて食べました



サツマイモがどっさり取れたので、お釜で芋汁を一杯作ってみんなでお腹一杯食べました



渋柿をむいて、干し柿にしました

見沼たんぼを支える農家さん

薄田隆夫さん

現在は土呂地区で専業農家としてはただ一軒、農業を営んでいる薄田隆夫さん。この時期ならサツマイモや里芋、季節ごとにはキュウリ、ナス、インゲン、ショウガ、万願寺とうがらし、カボチャ、スイカ等々、旬の野菜を育てています。市民の森の風車の前にあるサツマイモ畑には、毎年10月になると主に東京から、保育園や幼稚園の子どもたちが次々とお芋堀を楽しみにやって来ます。また米も栽培していて、特にミルキークイーンが人気です。

東武アーバンパークライン大宮公園駅近くのお宅に伺った時、門を入って最初に出会ったのがジャージ姿の5~6人の中学生でした。里芋の収穫をしていると楽しそうに話していましたが、薄田さんは中学校で職業体験の授業が始まった時からずっと、体験の生徒たちを受け入れてきたということで、今は7校を受け入れているそうです。

学校給食にも米を提供しています。先日、季節の芋ガラをメニューに使いたい、という栄養士の相談に応じて芋ガラの混ぜご飯を提案し

たら、子ど

薄田隆夫さん

もたちにとても好評だったそうだよ、と楽しそうに話してくれました。

薄田さんのこだわりは肥料。独自に工夫した有機肥料をご自分で作っています。若い頃から、いろいろと工夫するのが好きだった、という薄田さん。

使う目的やタイミングに合わせて、何種類もの素材の配合を考え、何度も切り返してじっくり寝

かせて発酵させる等、その時の作物の状態に合わせて調整しているそうです。

野菜や米は武蔵浦和駅に直結したショッピングモール「武蔵浦和マーレ」と土呂駅西口前の土呂直売所で販売しています。

実は薄田家の直売には歴史があります。今でこそ市内のあちこちに直売所ができて、地元の野菜を手に入れることができます

東武線脇の畑



になりましたが、そのもっとずっと前から薄田さんのおばあさんは盆栽町で野菜の直売をしていたそうです。

そろそろ歳も歳だから耕作するのを減らしたら、と言われたりもするけれど、この間も古くなった機械をつい買い換えてしまった、と日に焼けた顔をほころばせて語る薄田さん。自分が作ったものを食べて、みんながうまいと言ってくれるのが何より嬉しい、と話してくれたやさしい笑顔が心に残りました。

取材：島田由美子・高橋いずみ

文責：高橋いずみ

武蔵浦和マーレ：南区白幡5-19-19

T E L. 0120-518-002

土呂直売所：北区土呂町1-12

営業日時：火・木・土 14:00~17:00

注) 前号の本欄でご紹介した「星野昇さん」は「星野

昇保さん」でした。お詫びして訂正致します。

見沼たんぼくらぶのイベント案内

第113回見沼塾『見沼たんぼの野鳥』

2月4日（日）9時30分～12時
大宮第二公園休憩ロビー集合、解散
講師・小峯 昇（NPO法人自然観察指導員
埼玉代表理事）

■大宮第二公園から周辺の川や池を見て回り、
野鳥を観察します。

申込み：当日、集合地で9時から9時30分まで受付

参加費：無料

交通：大宮駅東口からバス⑧「芝川」下車、北側、（大宮発 8:35、8:55）

第72回見沼の自然と史跡を訪ねて

3月21日（水・祝）9時～12時30分
浦和駅東口集合（路線バスで「念佛橋」へ）

■グループに分かれ、自然観察指導員のガイドで、「浦和くらしの博物館民家園」から「見沼通船堀」を経て東浦和駅前へ。

申込み：当日、集合地で8時30分から9時まで受付

参加費：無料（ただし、会員外は¥500）

会員の主宰するイベント情報

見沼スケッチ会 第11回水彩画展

2月20日（火）～25日（日）9時～17時
(ただし、最終日は15時まで)

場所：さいたま市立大宮図書館展示ホール

交通：大宮駅東口から徒歩約18分
(氷川参道二の鳥居の東側)

■当会は「旧坂東家住宅見沼くらしつく館」を拠点に、毎月第1火曜日に、見沼の風景を主なモチーフに水彩画を勉強している同好者のサークルです。

気軽にお問合せください。

主宰 八木 一郎 ☎(048)822-5504

見沼たんぼくらぶ入会を勧めます

見沼たんぼをもっと知りたい

見沼たんぼの自然にふれてみたい

見沼たんぼで何かしたい

見沼たんぼ保全に協力したい

そんな皆さまをお待ちしています！

■季刊『みぬま通信』カラー版郵送

4月・7月・10月・1月発行

■埼玉県土地水政策課の支援のもとに

見沼たんぼ地域の里やまで、様々な体験事業を展開。子どもから年寄りまで気楽に楽しめるイベントです。

○…見沼ふれあい農園づくり

農地はスタッフが耕耘し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。

「京芋・里芋・八つ頭栽培」や「秋野菜栽培」などを楽しみ、福祉施設にも寄贈しています。

○…自然観察ハイキング

自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を巡りながら花や鳥などを見て回ります。

○…見沼たんぼ清掃ボランティア

○…斜面林の体験学習

○…見沼塾—見沼の自然や文化を学ぶ講座。年4回。

■ 年会費 個人（同居の家族単位）1口

1,000円以上

団体・企業 3口 3,000円以上

みぬま通信第73号

発行日 平成30年1月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2018 Minuma Tuusin